

2020年2月18日(火)日本海事新聞6面より抜粋
港湾短大神戸校 早駒運輸・渡辺社長が記念講演 (渡辺社長)

2年間の研究成果発表

早駒運輸・渡辺社長が記念講演

若い人たちに「港湾のしごと」の魅力を伝えるイベント「港湾ポリティックビジョン」が14日、神戸市中央区の神戸ポートオアシスであった。港湾職業能力開発短期大 学校（港湾短大、小玉博史校長）神戸校が、港湾関係事業者に人材育成を啓発する機会にしてみらおうと企画。約130人の参加者を前に、3月に卒業予定の学生が2年間の集大成として研究成果を発表した。

小玉校長は「学生は、総合製作実習を通じスキルアップに取り組んできた。その研究成果を発表することで（人材育成に取り組み）本校の目標を少しでも多くの方に知っていただきたい」と発表会の趣旨を説明。来賓として出席した神戸市港湾局の加島洋子副局長は、市の経済が神戸港に支えられていることを紹介し、「神戸港で働いてもらい、将来への発展に提言し

港湾短大神戸校



てほしい」と新戦力に期待した。

続いて早駒運輸の渡辺真二社長が「神戸の元気は港から」と題して記念講演。神戸開港から間もなく創業した同社の歴史を振り返りながら、「これからの神戸港は物流と共に人流を盛んにする必要がある」と持論を展開し、神戸港のにぎわい創出に取り組みさまざまな事業を紹介した。

この後、学生が研究成果を発表し、港湾流通科の学生は電気エネ



㊦あいさつする小玉校長 ㊦学生が研究成果を発表

ルギーを中心とした貿易・港湾産業の役割、倉庫業の関連法規テクニックの作成、港湾技術科の学生からフォークリフト運転技能向上のための課題作成、港湾運送業での「安全の見える化」などについて発表があった。